

永遠の愛が欲しいければ、人間以外にならなさい。



THE HUNGER
●Directed by TONY SCOTT ●Director of Photography STEPHEN GOLDBLATT ●Music by MICHEL RUBINI, DENNY JAEGER ●Produced by RICHARD A-SHEPHERD
CATHERINE DENEUVE, DAVID BOWIE, SUSAN SARANDON

ハンガー

カリーヌドヌーヴ、デヴィッド・ボウイ、スーザン・サランドン
●監督 トニー・スコット ●撮影 スティーヴン・ゴールドブラット ●製作 リチャード・A・シェパード
●音楽 ミシェル・ルビニ、デニー・ジャガー
イギリス映画/リチャード・シェパード・Co.プロダクション作品
＜カラー作品＞CIC映画配給

the Hunger

ハンガー

カトリーヌ・ドヌーヴ

デヴィッド・ボウイ

スーザン・サランドン

クリフ・ド・ヤング

●監督 トニー・スコット

●撮影 スティーヴン・ゴールドブラット

●製作 リチャード・A・シェファード

●音楽 ミッシェル・ルビニ/デニー・ジャガー

イギリス映画 リチャード・シェファード・Co. プロダクション作品

〈カラー作品〉CIC映画配給



映画が胎動期の頃、ヴァンパイアは銀幕を暗躍していた。そして今世紀末にまたデカダンの香りを振りまき吸血鬼が出現した。その名はハンガー。演ずるはカトリーヌ・ドヌーヴ。そして犠牲となるのは……。

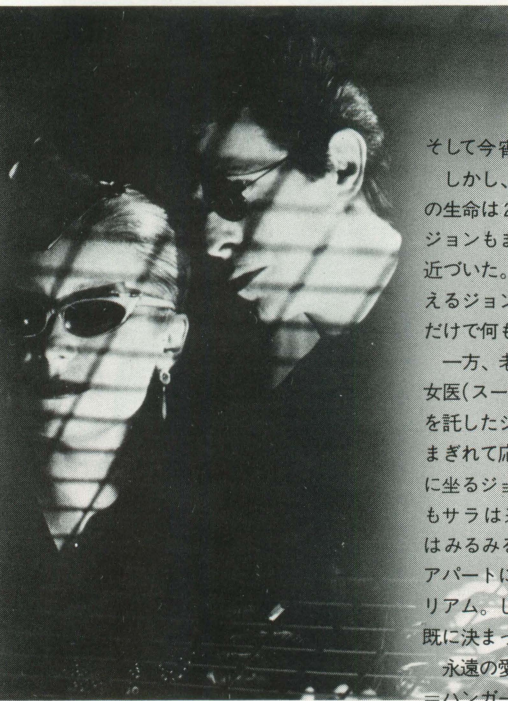
昨年のカンヌ映画祭ではじめて全世界に発表され、ドヌーヴとボウイの競艶という組合わせもさることながら、今までにない吸血鬼の登場は、異常なまでの興奮をまき起こした。

メタルホラーと呼ばれる新種の恐怖映画のメガホンを取ったのは、CF畑で数々の賞を総ナメにしてきたトニー・スコットである。また、近年異色のSF大作で有名になったリドリー・スコット監督とは兄弟であるのも話題のひとつだ。「ハンガー」に繰り広げられる艶めかしいまでの映像美は、「デュエリスト」「ブレドランナー」等で一躍その才を認められた兄譲りのものといえよう。

そしてこの作品の鍵ともなるべきボウイの『変身』を仕掛けるのは、特殊メイク35年の実績を持つディック・スミスである。「ゴッドファーザー」で話題となったマーロン・ブランドのブルドッグメイクは、彼の手によるものだ。老いを表現する仕事にかけては、右に出る者はいないが、「トッツィー」で女装の麗人を仕立て上げるなどユニークな才能も持っている。

物語の展開はスピーディーに進む。

世紀末の退廃都市ニューヨークに甦ってきたミリアム(カトリーヌ・ドヌーヴ)。そして十八世紀バロックの西欧貴族でありながら彼女に永遠の生命を約束されて共に生血を摂取して生き永らえてきたジョン(デヴィッド・ボウイ)。紫煙の中、アンダートゥーンのディスコティックで“獲物”を探す二人。その野性的な眼の輝きは、檻で歯をむき出し暴れ回る猿とフラッシュ・バックされる。



そして今宵も一週間分の“食事”にありつく。

しかし、ミリアムに血を分けられた吸血鬼の生命は200年で終焉する運命にあった。ジョンもまた同じ運命をたどり、最期の日が近づいた。そのことを身体に感じとりうろたえるジョン。だがミリアムは、それを見守るだけで何もしてあげることはできない。

一方、老化現象を研究するサラ・ロバーツ女医(スーザン・サランドン)は、最後の望みを託したジョンの訪問を受けたが、忙しさにまぎれて対応を拒んでしまう。待合室の椅子に坐るジョン。20分、30分……2時間待ってもサラは来ない。そのうちにジョンの身体はみるみる200歳のそれに変貌してゆき、アパートに帰り息絶える。哀しみにくれるミリアム。しかし、次に仲間につきあうべき相手は、既に決まっていた……。

永遠の愛と美を欲して飽きることのない女＝ハンガー。一瞬の老醜の悲劇を何度悲しめば気がすむのか？ハンガーのたどる道は感動的なラストへと流れ込んでゆく。

元貴族の麗人ジョン役のデヴィッド・ボウイは、本来グラムロックのスターであるが、「地球に落ちてきた男」以来、銀幕のスターとしても一流となった。昨年の「戦場のメリークリスマス」で全世界にその存在が認められ、日本で俄然人気盛り上がったのは記憶に新しい。

女吸血鬼ミリアム役のカトリーヌ・ドヌーヴに関しては、改めて述べるまでもないが、元夫ロジェ・ヴァディムが「血とバラ」で女性吸血鬼を登場させていたことを考えると、奇妙な因縁である。

撮影は、スティーヴン・ゴールドブラット。音楽は、デカダンの香りを振りまいて日本でも人気沸騰のパウハウスが担当している。

(上映時間 1時間36分)

次回ロードショー

特別鑑賞券 ¥1200 発売中(当日1500均一の処)

シネマスクエア

とうきょう

新宿コマ劇場向い ミラノ座横3F (232)9274

全自由席定員制 ● 入替制

連日 12:30 2:40 4:50 7:00

● 金・土曜の夜はレイトショー実施 9:10より